

松本市新庁舎建設市民懇話会

第2回市民懇話会資料

日時 平成29年12月17日(日)午前10時15分～
会場 松本市役所本庁舎3階 大会議室

委員意見集(非公開)

河西 史郎 委員	1
倉澤 聡 委員	2
坂井田 金一 委員	4
佐藤 人実 委員	5
下笹 玲奈 委員	6
高倉 万記子 委員	7
田下 光 委員	8
田邊 愛子 委員	11
土屋 澄彦 委員	12
西村 昭太 委員	13
萩原 梢 委員	14
福嶋 良晶 委員	15
前田 紳一 委員	16
松尾 朗子 委員	18
松山 紘子 委員	19
宮澤 信 委員	20
村山 忠勇 委員	22
渡邊 幸夫 委員	23

1 市民がサービスを受ける場所・職員が働く場所としての庁舎のあり方

【車を利用される市民の方】

- ・支所、図書館の有効利用
- ・コンビニ

【車を利用されない市民の方】

- ・自宅：インターネット利用
- ・松本駅のビルを賃借、駅と直結路を作る（ミドリ・井上の別館等）

- ・窓口対応が少ない部署、業者との打合せ中心の部署は、機能分離（合庁近く / 平田駅西 / 臨空工業団地等の休眠地）
渋滞による経済損失が大きい。まちなかに車を入れない。

前提

庁舎という建物と市役所の機能を再考する必要があると思います。（例：ワシントンD.C.）

- ・市役所の機能 すべきこと、求められること（市民、市民以外）
- ・市民に対してのサービス
- ・外部に対しての市役所の機能

2 松本の地域特性や周辺環境に合った庁舎のあり方

- ・自然を生かし、3ガク都（岳都、楽都、学都）にふさわしい庁舎
- ・「心豊かな松本」

3 子どもや孫、その先の世代を見据えた庁舎のあり方

- ・IT、IoT、AI等を見据える。その専門家の意見も聞く。
- ・昭和、大正、明治、江戸時代を振り返り、市民のために官は何をすべきか。

1 市民がサービスを受ける場所・職員が働く場所としての庁舎のあり方

- ・ これまで民間も行政でも大量生産型の工場的組織適応が基本とされ、オフィスデザインについてもそれに適応した形で現在の姿になっていると考えられる。働き方や組織運営についても様々な見直しが始まっており、松本市としても今後の市役所の組織運営をとことん議論し、より組織力を高める試行錯誤をしながらこれからの市役所をとことん探ったうえで、空間を考える必要があると考える
- ・ 無駄な会議を減らすのが必要な一方、ちょっとした休憩などに話をするインフォーマルな会話が重要であることは経営学の論文等でも指摘されている。また、長時間座ることは脳のパフォーマンスを下げ、健康維持にもマイナスとなることも指摘されている。働き方に対しては、経営学でも様々な研究がなされており、研究の成果を生かして働き方や空間デザインを考えることも重要である
- ・ 市民や職員のアイデアを共有できるような工夫が欲しい(例えば MIT のメディアラボのような)
- ・ 市政の広報物や政策としての将来のイメージなどを的確に、美しく見たくなるように掲示する工夫が現庁舎にはなく、ポスターなどが乱立する状況であり、政策や企画などのプレゼンテーションを考えた空間が必要であると考え
- ・ 市民や市外からの有識者など、会議や打ち合わせの機会が多いが会議のスペースのデザインが現状はあまりよくない。会議や打ち合わせ、コンファレンスなどが気持ちよくできる空間が必要であると考え
- ・ 行政にもクリエイティビティが求められている。想像力を高めるための空間の工夫が必要
- ・ 議会と市民の距離があるように思えるため、議場などもう少しオープンにする工夫や、議会における論点などをもっとわかりやすく伝えるような掲示などを考えることも必要なのではないか

2 松本の地域特性や周辺環境に合った庁舎のあり方

- ・ 山や松本城が綺麗に見える立地であり、現庁舎でも最上部では 360 度のかなりレベルの高い眺望が楽しめる。このような眺望を楽しむ工夫は必要である
- ・ 湧水が得られる立地であるため、魅力づくり、省エネなどに利用することも考える必要がある
- ・ これまでの松本らしさと語られていることを単に踏襲するのではなく、これからの松本らしさを創造するという視点が大切

3 子どもや孫、その先の世代を見据えた庁舎のあり方

- ・ 人口減少や働き方が変わるにより、数十年後には建物の需要が庁舎としては少なくなることも考えられるが、この10数年の庁舎として機能するだけの空間を持つことも重要である。市街地に人が集まる構図は50年、100年の未来でもまちとしては重要な要素となるので、民間にも貸し出しができた、他の公共スペースを集約化できるような工夫などは必要だと考えられる。
- ・ 長期寿命建築として、改装がしやすい構造といった視点も大切ではないか
- ・ 日本においては、基礎自治体合併が安易に行われてきており、今後そのメンタリティーは変わらないかもしれない。とすると、周辺市町村が合併するといったことも可能性としては少ないと願いたい、考慮しておく必要もあるのではないか。
- ・ 50年後といった将来の世代からも、50年前の心意気を感じてもらえるような、将来に現代を歴史として感じられるような建築の試みが求められる

1 市民がサービスを受ける場所・職員が働く場所としての庁舎のあり方

- ・ 余裕のあるレイアウト
- ・ プライバシーに配慮した相談スペース
- ・ 退庁時には机上に何も残らない収納スペース
- ・ 部長室は不要
- ・ 議会関係は1階に 市民の目に近い所

2 松本の地域特性や周辺環境に合った庁舎のあり方

- ・ 松本城の背景や附属施設と考えた時、お城の一部と見える建物
- ・ 現庁舎東側の堀とお城の外堀をつなぐ

3 子どもや孫、その先の世代を見据えた庁舎のあり方

- ・ 最上階を市民交流スペースとして活用（防災避難施設を兼ねる）
- ・ 観光客や市民が気軽に使える展望レストラン（職員食堂を兼ねる）
- ・ 市役所の建物が観光施設となりうる建築物

1 市民がサービスを受ける場所・職員が働く場所としての庁舎のあり方

- ・職員が働く場所としては、職員が一番よく知っていると思う。働く社員の意見を聞かないで会社を建替えるのは良くない。内部で一人ひとりにアンケートを取り、現庁舎の不便なところ、新庁舎への要望をまとめるか、部署ごとに意見をまとめると良いと思う。

2 松本の地域特性や周辺環境に合った庁舎のあり方

- ・市街地・松本城周辺は、一方通行も多く、土地も狭いと思うので、新庁舎の地下を駐車場にしてはどうか。休日には現在のようにお城の観光の際に利用でき、雨の日でも傘を差さずに建物内に入れれば、身体が不自由な人、子ども連れの人にも便利。

3 子どもや孫、その先の世代を見据えた庁舎のあり方

- ・3階の景色の良い場所か1階（出入りしやすいため）に、食堂やフリースペース（休憩、カフェ等）があると良いと思う。市民が利用する市役所として、手続き以外の利用もできれば、市役所により来やすくなると思う。
- ・防災の拠点、災害があった時、拠点となるような場所であってほしいと思う。しっかりとした造り、地震・火災に負けない造り。

1 市民がサービスを受ける場所・職員が働く場所としての庁舎のあり方

- ・障害がある人、子ども連れの人、妊婦さん、高校生や大学生、市役所に来るすべての人に使いやすい庁舎（広い通路やわかりやすい地図、キッズスペース等）
- ・一人の人が必要な部署をまとめて、使いやすい工夫
- ・ただのワークスペースではなく、市民との交流の場となるようなカウンター

2 松本の地域特性や周辺環境に合った庁舎のあり方

- ・お城の写真を撮った時に気にならないような外観

3 子どもや孫、その先の世代を見据えた庁舎のあり方

- ・高齢者や子育て世代が使いやすいような駐車場

1 市民がサービスを受ける場所・職員が働く場所としての庁舎のあり方

- ・ 利便性、BCP の観点からも、住民が庁舎に行かなくてもよい、職員が庁舎で働かなくてもよい仕組みを積極的に導入すべきと思う。
- ・ 周辺の支所や出張所でもサービスを受けること、働けることを考えたほうがよいと思われる。

2 松本の地域特性や周辺環境に合った庁舎のあり方

- ・ 住民にも松本城が眺められる景観を大事にしてほしい。
- ・ 本庁舎を大きく広くすることは難しいため、各支所や出張所の活用が肝要と考える。

3 子どもや孫、その先の世代を見据えた庁舎のあり方

- ・ 建設費用が後に負担にならないよう、負担になっても住民に納得がえられるような施設であってほしい。

1 市民がサービスを受ける場所・職員が働く場所としての庁舎のあり方

- ・市民にサービスを受けるという関係で職員が働く場所というあり方であるべきでない。
- ・サービスだと関係が一方的になる。アソシエイトであり、アシスタントという関係で奉仕でも労働でもなく、環境、給与、目的に見合った、仕事をする場であり方を考えたい。サービスをするという関係は自発的かつ有事の時のみにして頂きたい。
- ・仮に、市民サービス場所を考えるのは懇話会でなく、市民ワークショップで議論すべきと前回の会で説明があったはず。懇話会で求める意見であっているのか。
- ・ワークショップではワークショップの運営任せられるスキルのある人材はいるのか。（アイスブレイク、プレスト、チームや議論、提案のまとめ方のアシストができるなど）
- ・市民と働く場所であると同時に松本市の防災拠点と有事の際におけるボイドスペースとしての検討をして欲しい。
- ・前回の会より、低層かつ明快なプラン、屋上を活用できる計画を提示した設計者の採用。サインデザイナー又はサインデザイン込みで設計を募集や採用をする。地域特性や周辺環境の読み解きをどうしているのか、どう調査して検討させたのか設計者に設計案とは別に提示して評価の検討の材料として欲しい。
- ・前回の会より、職員が適切に働ける場所というのがありました。自身が働く、同僚が働く場所は自身で考えて頂き、それに懇話会などで意見をする形のほうが適切だと考えます。
- ・職員が適切に機能するには何が有用であるか、どうあるべきか議論と仕分けをして欲しい。（前回の現庁舎の見学中に職員の方から、ちょっとした会議ができる場所が欲しい、市民と話せる会議室や職員だけの会議室が欲しいという話を聞いた。こういう意見が重要だと考えます。）
- ・市長室や議会についても、市民の意見の前に市議や市長に庁舎としてなにが不足で有用になるのか、意見が欲しい。未来型の庁舎について、現在の議場や市長室などでいいのか。
- ・前回の会で出た、たらい回しの様な事態を改善するにはどうしたらいいのか。例えば、人材不足ではなく専門に担当をつくらない。マルチに担当できる人を育成するなど、相互補完するシステムはどうしたらいいのか検討していただきたい。
- ・同じく、1000人規模の組織で全体像を把握して働くのは難しい。目の前の事象で忙殺されていく。それを補完し合う事で全体を築く組織はどういう組織か。
- ・職員たち自身で人口に伴う職員の削減（主に定年と雇用の調整）と人員削減ではな

い組織のリストラチャリング案を提示して欲しい。

- ・結論がなくても次回から、庁舎に関係する部署の代表者は政策課からもでて懇話委員と同じ様に意見が欲しい。
- ・職員間の議論や意見集約にどう結論をだしたのかも教えて頂きたい。そこに市民と職員の関係について場所について探る糸口があると考えられる。

2 松本の地域特性や周辺環境に合った庁舎のあり方

- ・松本城が政治的中心として継承として市役所の存在が適切とあったが、象徴の中心がふたつあっては象徴性が欠くとも考えられる。過去とは政治システムが違うのにその象徴を継承していいのかとも考えられる。松本市役所として現在や未来の象徴は何か考え、中心となる松本城の象徴を欠かない方向性を見出すにはどうすべきか考えたい。
- ・前回の会より、木造について。木造では海外では、特殊な集成材によって木造でのビル（7～8階建）があり、日本でも建てられるでしょうが地域材の利用や防災や費用を考えるなら、木材の利用を考えるならば木質的な内装や外装に留めるのが現実的で将来性がある。安曇野市役所も主体構造はRC造で、市有地の木材によって内装などがなされている。
- ・前回の会より、欧米的に長寿命の市役所をと望む意見があったが、日本では遷宮など満ち欠け、朽ちて再生する文化です。長寿命ではなく、内装だけでない構造や敷地も踏まえた改修のできる余地のある設計案を募集したほうが賢明であると考えます。
- ・市民ワークショップだが設計者の決定前後で開く事を提案したい。懇話会、ワークショップの案を元に選定した設計案をワークショップで修正、再検討をすべきと考える。修正を前提とした設計案を募集して欲しい。新潟市秋葉地区市民交流会館（設計者：新居千秋都市設計事務所）などがこの様な方法をとっている。
- ・前回の会より、本庁舎での職員数と床面積だが、職員数700人、将来的に600人と考えて、300人を支所に移動し、将来的に100人の職員削減をしていただきたい。（人口の変動に伴って定年などでの退職と雇用での調整）本庁舎の床面積は会議室の検討と設計によって工夫を加味、市民ワークショップでの検討の主となる交流スペースを多く見積もって約130,000㎡で約90,000㎡の床面積を移転して頂きたい。
- ・松本駅から松本城まで、徒歩圏内の境界だと資料にあった。障害者、子連れなどの移動では範囲なのか、車の移動も城や大型商業施設の影響で多く、職員の車の出入りもあり日常でも混雑し易い。マルチモビリティ推進のためにも、観光と福祉の窓口のある駅前支所を検討して欲しい。

- ・ 建築、都市計画、土木、維持、などの専門の申請を受ける、車での移動が多い部署は松本 IC 近くの水道局を拡張や隣接して支所を検討して欲しい。
- ・ 松本市は床面積の比較にあった市と人口規模が一緒でも市の面積は倍近く違う市もある。それだけで本庁舎からの移動も難しければ施設の数も多くなり、道路など土木の維持にも費用がかかる。それに本庁舎に行くより地域の支所で用事が済むのが一番利便性も実用性も高い。
- ・ 本庁舎の縮小と地域施設の拡張と複合化によって、コンパクトシティ プラスネットワークのネットワークに比重を置いて本庁舎は市長、市議のいる支所の核という位置づけがふさわしいと考える。量から質に転換しようと一定の量は重要で、質が高く複雑な物事は作成や管理に量を管理するより費用がかかる。

3 子どもや孫、その先の世代を見据えた庁舎のあり方

- ・ 施設のネットワークを維持しようとするには職員の情報のやり取りが重要になる。情報の収集をするのに、複雑で大きな高性能なデバイスより、複数のデバイスが多くあるほうが広範囲で多様な情報集まる。情報を守るのに、一つの堅牢な金庫より複数の金庫に重複させるほうが情報は守れます。特性や環境は現状から変化する。それを察知するにもネットワーク型の庁舎を検討してほしい。
- ・ 設計者の選定について、本庁舎だけでなく支所や施設に総合的な設計のアドバイスができるなど本庁舎の設計のみで終わらない長期で関係が設計者を選定要綱の検討。
- ・ 過去の実績や人種を限らない公平で多様性のある選定要綱の検討。
- ・ 前回の会より、紙資料のデジタル化について提言がありましたが。一定は有用ですが。デジタルは流出した際には一度に全体的な情報が流出し易く、出回った情報は処分ができないので、秘匿性の高い情報はアナログが1番有用です。情報の仕分けと管理システム、システム自体の点検と更新について考えていきたい。
- ・ 税収を減らさない方法、議論に参加する余裕のない人や興味のない人は税が上がれば安い隣接する市に流出していく。
- ・ 費用を削減する方法、本庁舎単体が良い施設になっても市全単体を見据えているとは。本庁舎のワークショップから支所などの地域施設。
- ・ 市民と議論していく。議論の場がある事がその先を見据えるという事のあり方だと考える。
- ・ 前回の会より、肯定的に若年層にキッカケも素晴らしいが、今のマス層の大人が変わらなければ未来はない。その動員についても考えていく事に有用性があると思う。

1 市民がサービスを受ける場所・職員が働く場所としての庁舎のあり方

- ・市民と職員、職員と職員が、それぞれ「風通しのよい場所」であってほしいと思います。

2 松本の地域特性や周辺環境に合った庁舎のあり方

- ・「健康寿命延伸都市」として様々な工夫はすでにされていますが、庁舎の中にもそれが分かるものを新たに取り入れる。（専門知識を持った人の確保等 例：運動）
- ・松本城の近くなので、信州の素材にこだわりながら、市民が自慢できるアイデアが組み込まれていると良いなと感じます。

3 子どもや孫、その先の世代を見据えた庁舎のあり方

1 市民がサービスを受ける場所・職員が働く場所としての庁舎のあり方

庁舎の外観、及び庁舎へ入った時、「なるほど松本は健康・子育てに注力している」と分かる」オープン的な配置と圧迫感のない空間。
 IT技術の有効活用と対面により市民と接する事が出来る両面の採用。
 市民サービスを受ける場所（新庁舎 or 各支所・地区）整理と分散化を行い新庁舎対応の良い点は各支所・各地区にも水平展開を行う。
 市民が行って観たいと思える新庁舎及び職員の笑顔が多い職場環境。

2 松本の地域特性や周辺環境に合った庁舎のあり方

松本城、美ヶ原、北アルプスとのマッチできる構造、外観の確保。
 松本城、美ヶ原、北アルプスが眺められる空間の確保と有効活用。
 市民サービスを受ける場所（新庁舎 or 各支所・地区）整理と分散化を行い新庁舎対応の良い点は各地区にも水平展開を行う。（上記1項と重複）
 新庁舎への公共機関交通充実施策を市内・周辺地域と同時に対策を進めて、公共機関交通の有効活用を図ると同時に新庁舎の必要駐車場数を確保する。

3 子どもや孫、その先の世代を見据えた庁舎のあり方

庁舎の外観、及び庁舎へ入った時、「なるほど松本は健康・子育てに注力している」と分かる」オープン的な配置と圧迫感のない空間。
 市民が行って観たいと思える新庁舎及び職員の笑顔が多い職場環境。
 （以上は1項と重複）
 松本市の将来人口・年齢構成も加味した内部レイアウト変更対応が可能な構造。
 （壁、間仕切りは最少限とする）
 将来人口推計・平均年齢・年齢三区分別構成比率・5歳階別人口ピラミッド比率の有効活用。（将来5年別絶対数と比率で松本市全体・市街地と周辺部・他市等）
 小学生・中学生・高校生・大学生よりの意見収集又は交流の場を通じて情報の収集を行う。（若者が描くイメージ像の把握）

1 市民がサービスを受ける場所・職員が働く場所としての庁舎のあり方

- ・2025年問題を目前にして、地域包括ケアシステムの担い手の中心として機能する必要がある。
- ・ソフト面で、行政内での連携強化が必要
- ・子どもから高齢者まで幅広い連携のため、福祉関係課は同一フロアが望ましい。特に障害福祉から介護保険への移行ケースのことなど、直営の地域包括ケアも含めて考えてほしい。

2 松本の地域特性や周辺環境に合った庁舎のあり方

- ・安曇野市役所・茅野市役所のように、不必要に大きく豪華でなくてよいのでは。
- ・現庁舎よりも高さがなくスペースも限られているため、広いエントランスや廊下をやめて、地域の関係機関と会議が行える部屋が複数必要ではないか。

3 子どもや孫、その先の世代を見据えた庁舎のあり方

- ・物理的バリアが最小限の設備
- ・耐震性に優れ、避難場所にもなり得る庁舎

1 市民がサービスを受ける場所・職員が働く場所としての庁舎のあり方

- ・現庁舎はとにかく分かりにくい。職員の方も乱雑とした書類の中で仕事をするのは大変ではないでしょうか？

2 松本の地域特性や周辺環境に合った庁舎のあり方

- ・松本城の周りは建築の条件が制限されていると聞いたことがあります。その中であの規模の建物を建てるのは大変だと思いますが、景観にマッチした庁舎になればいいなと思います。

3 子どもや孫、その先の世代を見据えた庁舎のあり方

- ・時代やニーズに合わせて、建て替えをしなくても変更できるような庁舎だったらいいなと思います。

1 市民がサービスを受ける場所・職員が働く場所としての庁舎のあり方

- ・市民が利用しやすい環境づくりのために、1階フロアを広く、通路部分をしっかりと確保すべきである。
- ・職員が効率的に業務が行えるよう、また書類等が適正に管理できるよう、各階ごとに独立した庁舎管理を行うべきである。
- ・各種手続きが電子申請できる機器を置き、職員を配置し、電子申請サポートを行うことで、窓口業務の軽減を図る。

2 松本の地域特性や周辺環境に合った庁舎のあり方

- ・新庁舎は高さが制限され、これまでのような眺望にはならないが、市民が気軽に訪れ、松本城を見ることができるよう配置にする。このためには、土日・夜間に一般利用ができるよう、出入口等を別にした庁舎管理をすべきではないか。

3 子どもや孫、その先の世代を見据えた庁舎のあり方

- ・将来の人口減少にも対応する庁舎とするためには、庁舎を時代に合った利用に転用できるものとするべきであり、一部を民間利用者に賃貸できるような構造、できるだけオープンスペースの多いものとする。
- ・維持管理費を軽減する建物とする。（太陽光など再生可能エネルギーや地下水の活用等）

1 市民がサービスを受ける場所・職員が働く場所としての庁舎のあり方

- ・新庁舎は高さの制限を受けるとのことですから、採光に配慮した地階を設け、スペースを確保すべきと思います。
- ・言うまでもないことですが、耐震性など防災の点からしっかりした躯体構造を研究すべきでしょう。
- ・ヨーロッパの都市に見られるように、市庁舎は百年、二百年の歴史を刻んだ建築物の方が魅力的です。
- ・松本城は四百年を超えています。新市庁舎は、六十年もてば良いとする考え方は再考すべきと思います。

2 松本の地域特性や周辺環境に合った庁舎のあり方

- ・松本城の太鼓門と通りをはさんで市庁舎ができることとなります。この立地は、観光的に魅力的な場所です。
- ・市庁舎の最上階は、素晴らしい景観が楽しめます。一年中オープンのラウンジを設けていただきたい。
- ・そのラウンジにはグランドピアノを備え、週末の夕方などにミニコンサートを催して、薄暮の北アルプスと松本城を楽しみたい。
- ・「楽都」松本には、ハイレベルなアマチュアやローカルなプロがたくさんいます。機会を待っている演奏家や声楽家には困りません。
- ・市庁舎の前の広場を生かし、土日祝日には地元産の野菜・果物・花・山菜・茸・地ワイン・地ビールなどの直売所ができれば嬉しい。
- ・内陸高地の松本の気温は寒暖差が大きく、農産物の味が濃厚だとされています。「松本一本ねぎ」のようなブランド野菜もあります。
- ・ミュンヘンやビュルツブルクなどの市庁舎の前の広場には、マルクト（英語のマーケット）広場があり、人気の観光スポットになっている。
- ・JRで来松される観光客から、「道の駅」のような地元の特産物を買う場所が無い、との声を聞いています。
- ・市庁舎の駐車場は別に確保するとして、市庁舎の松本城側（太鼓門前）は、広場として開放すべきと思います。
- ・ネットでマルクト広場の画像を見てください。庁舎の軒先に柱廊があり、雨の日でも直売所ができる工夫になっています。
- ・市庁舎は単なるオフィスではなく、市庁舎前広場は美術館や博物館同様、生かし方により魅力ある観光資源になると思います。
- ・関連する業種も多い観光産業は、21世紀の産業です。環境を汚染することも無く、松本の知名度・好感度を上げてくれます。

3 子どもや孫、その先の世代を見据えた庁舎のあり方

- ・上記のマルクト広場は、静かな住宅地であるが買い物難民が増えている開智・新町・萩町・安原などの住民にも感謝されることでしょう。
- ・再訪する機会が少ない観光客向けの、価格が練られていない、金沢の近江町市場のようなポッタクリ系の直売所は困ります。
- ・その点、地域住民も買い物に来る機会があるであろう市庁舎付近は、観光客も安心して訪れることができると思います。
- ・松本城と新市庁舎とマルクト広場が、松本市民と県外・海外から来る観光客との「楽しい交流の場」となることを願っています。

1 市民がサービスを受ける場所・職員が働く場所としての庁舎のあり方

- ・松本城と隣接しているという立地の良さを最大限活用し、市民も観光客も入りやすい庁舎。
- ・現在の雑然とした雰囲気(書類の置き場所等がむきだしな点)を一掃し、市民のみならず職員がまず働いて気持ちの良い場所となること。
- ・サービスを受ける市民の立場を考え細かい気配りを考えた庁舎。

2 松本の地域特性や周辺環境に合った庁舎のあり方

- ・松本城及びアルプスの山を市民及び観光客にアピールできる庁舎であること。
- ・徒歩でも来庁しやすい環境、施設整備。
- ・近隣の商店街、モールも巻き込み市民が効率的に利用できる庁舎。

3 子どもや孫、その先の世代を見据えた庁舎のあり方

- ・50年耐えられる耐震を備えた庁舎
- ・人口減少にも耐えていけるよう民間の資金・ノウハウを最大限活用し、修繕費用や維持管理コストに至るまでを計算し将来に負担を残さないことが重要。

1 市民がサービスを受ける場所・職員が働く場所としての庁舎のあり方

みんなにやさしい庁舎

2 松本の地域特性や周辺環境に合った庁舎のあり方

3 子どもや孫、その先の世代を見据えた庁舎のあり方

省エネルギー・市のおさいふ(財政)にやさしい庁舎

1 市民がサービスを受ける場所・職員が働く場所としての庁舎のあり方

< 課題 >

- ・職員の労働環境
- ・弱者（高齢者・身障者）への配慮

< 方向性 >

- ・市民や職員が憩う場所の確保：ロビー、オープンスペース等。
- ・職員や来庁舎が快適と感じる環境（温湿度、光、空気）：冷暖房や照明だけに頼るのではなく、松本の四季の変化、気候特性、晴天率の高さ、きれいな空気等を巧みに利用する。中間期には、外気を使う。太陽の光の導入。冬はたっぷり入れる。夏は適度に遮光する。「フラクタル日除け（ルーバー）」という発想を取り入れる。あるいは、信大の中央図書館の木製の巨大な「ルーバー」。場所によって角度に変化を持たせ、外気と日光を上手に取り込んでいる。
- ・建物内の移動だけではなく、駐車場や公共交通からのアクセスも含めて、弱者（身障者、高齢者等）の使い勝手を最優先する。逆に、健常者には多少不便でも構わない。（弱者はマイノリティである。マイノリティ重視が、目に見える形にすべきである。）

2 松本の地域特性や周辺環境に合った庁舎のあり方

< 課題 >

- ・省エネ性能。松本の気候に合った省エネシステム。
- ・自然エネルギーの活用。
- ・地下水の保全と活用。

< 方向性 >

- ・ZEB（Zero Energy Building）：当然の流れですが、加えて、松本の特性に合った自然エネルギーや省エネを実施する。（空気が澄んで日照時間が長いので、太陽光発電は筆頭に挙げられるが、合わせて、太陽熱利用を考える。太陽熱温水器と温水活用ヒートポンプと組み合わせた空調システムも考えられる。バイオマス、地下水も、地域に合った自然エネルギーであり、活用方法がいろいろと考えられる。）
- ・建築材料：地域産の木材の利用
- ・松本の気象、気候に合った空調システム：空冷ビルマルチは、省エネ性能にすぐれ、一般的ではありますが、松本の冬の厳しい寒さの対策を考えると、水冷ヒートポンプの方が良いと考えます。地下水を熱源とすると、さらに省エネ効果が大きくなります。
- ・建物の断熱：省エネに大きく影響する。冬の厳しさを重視した設計。窓は、樹脂サッシのトリプルガラス。南面以外はLo-E ガラス。南面は、冬の太陽の活用を考えて、Lo-E とはしない。

- ・ **地下水の活用**：中心市街地には、自噴井戸も多数あり、活用されずに側溝を流れて河川に流出している。むろん保全対策として、透水性舗装、水田涵養等を政策として実行していくことを前提として、地下水の積極的な活用を考えたい。夏のヒートアイランド対策として、打ち水的な活用。冬の融雪への利用。冷暖房・給湯等のヒートポンプの熱源への利用。建物の地下に水槽を設け、空調の省エネのための蓄熱槽と防災対策を兼ねる。井戸そのものを、防災対策井戸と位置づけて、上水道断水時、停電時に活用できるような整備。

3 子どもや孫、その先の世代を見据えた庁舎のあり方

< 課題 >

- ・ 老朽化、陳腐化。
- ・ 鉄筋コンクリートのビルは長く持たない。

< 方向性 >

- ・ 建物（躯体）の長寿命化：長く使える。例えば、100年後には文化財となるような建物
- ・ 長く使える木造建築というコンセプトで。鉄筋コンクリートではなく、「**CTL（直交集成材）**」を躯体としたビルとする。建設時の環境負荷が大幅に低減する。
- ・ 内装、外装にも、地域産木材を活用することで、松本らしい景観となる。松本城の景観とマッチングするようなデザインで。
- ・ フレキシビリティ：将来のニーズや規模が変わっても、変化、対応していくことができる建物。

1 市民がサービスを受ける場所・職員が働く場所としての庁舎のあり方

- 1．多文化共生に対応できるユニバーサルデザインの導入
- 2．高齢化、少子化等、弱者に優しい設備の整備
- 3．本庁舎業務の見直しを行い、市民に身近な地域づくりセンター（出張所）への移行業務により、職員及び庁舎の縮小を図る。
- 4．業務の合理化、軽減化を図るため、積極的にICTやAIの導入を実施する。（職員の意見も十分把握し、新庁舎に反映したい。）
- 5．市民と職員のコミュニケーションの場としての空間を確保する。
- 6．庁舎は、あくまでもオフィスとしての機能を追及し、サービスを確保する。

2 松本の地域特性や周辺環境に合った庁舎のあり方

- 1．松本城に隣接している庁舎は、城下町の風情に相応しい建物とし、特に景観に配慮したい。
- 2．新庁舎はお堀に接しているため、松本に訪れる観光客等にお城と北アルプスが眺望できるテラスを設置したい。
- 3．現庁舎より高さが制限されることを踏まえて、平面積の確保が必要となる。駐車場を地下にするなど、工夫したい。
- 4．人や自然に優しい木材を多く取り入れ、松本の特徴を生かしたい。（従来まではSRC構造がほとんどであったが、木材の長所を採用したい。意外と耐久性があるのでは？）

3 子どもや孫、その先の世代を見据えた庁舎のあり方

- 1．50年後の社会を想定すると、約20%の人口減と、行政サービスが軽減されるので、現庁舎より約30%以上面積が少なくても済むと考える。各地区へサービス業務が移行するため、縮小を前提として計画したい。
- 2．将来を考慮すると、耐久性の部屋は大部屋とし、間仕切り等でフレキシブルにオフィスを考えたい。後世代の発想に柔軟性を持って応えたい。（自由に模様替えできるように、ヨーロッパの考えを採用）
- 3．地方分権を根源に考えると、地域づくりセンターの役割を期待する。スクラップ&ビルドを考察し、身近なサービスに応えたい。

1 市民がサービスを受ける場所・職員が働く場所としての庁舎のあり方

- 1) 建物としては基本的にはソフト・ハード面ともユニバーサルデザインの考え方で建設運用されることが必須です。
- 2) 情報の発信や危機管理面の考え方も、受け手側の能力の差を十分に理解した上で運用されることが肝心。
- 3) 障がいを持つ方や、高齢者が受けるサービスは、ワンストップで完結できることが大切と考えます。
- 4) ICT も肝心ですが、説明員が付き添わないとアクセスできないケースがよく見られます。サービスを受ける市民の立場に立った設備が必要だと思います。

2 松本の地域特性や周辺環境に合った庁舎のあり方

- 1) 立地場所を考慮すれば、松本城との景観のマッチングが大事。
- 2) 特に、中信市街地や三の丸構想との関連や、松本城関連整備とのシティリングを大切にしたいあり方が大事か。
- 3) 広域松本市のハブ機能を持つ市庁舎あり方を考慮し、かつ、松本市の将来人口動態を考えると、あまり大きな庁舎が必要なのか見当が必要。

3 子どもや孫、その先の世代を見据えた庁舎のあり方

- 1) ICT や AI の進み具合を予想しながらの設備投資が必要か。